

文化経済学会〈日本〉秋の講演会・九州大学ソーシャルアートラボ公開講座
「九州から発信する文化経済学のいま ～公共劇場における社会包摂を題材に」

地域に開かれた劇場のあり方は長年文化経済学の分野でも議論され、劇場法制定以降、公共劇場における社会包摂をめぐる事態はさまざまな展開を見せています。多くの取り組みが草の根的に取り組みられている一方、2020年の新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言により、劇場のあり方そのものが根本から問われている時期に来ていると言えます。

本講演会ではシンポジウム形式で、九州においての優れた実践を行う劇場の取り組みについて実践を伺うことで、これからの公共劇場における社会包摂のあり方についての理解を深めます。また、新型コロナウイルス感染症に伴う活動自粛に伴う、オンラインを活用した実践についてもお伺いし、これからの劇場のあり方を考える上の議論の基盤をつくることを目指します。

・日時：2020年10月10日（土）14：00～16：30

・会場：オンライン

・参加費：無料

・参加方法：文化経済学会〈日本〉会員・非会員を問わず、以下のURLから事前に登録してください。

<https://zoom.us/meeting/register/tJIsceyrpzopHNU1N6mW-SMbLg0KOZsTKzWg>

・プログラム

14:00～14:10 全体趣旨説明

コーディネーター：

長津 結一郎（文化経済学会〈日本〉会員/九州大学ソーシャルアートラボ）

14:10～14:35 第1部 会長就任講演

増淵敏之（文化経済学会〈日本〉会長）

14:35～14:45 休憩

14:45～16:30 第2部

シンポジウム「公共劇場における社会包摂 ～九州の事例から考える」

ゲスト：

糸山 裕子（福岡県立ももち文化センター）

嶺 浩子 （熊本県立劇場）

徳永 紫保 （宮崎県都城市総合文化ホール）

コメンテーター：

片山 泰輔 （静岡文化芸術大学文化政策学部教授）

尾本 章 （九州大学大学院芸術工学研究院教授・副研究院長）

主催：文化経済学会〈日本〉、九州大学大学院芸術工学研究院ソーシャルアートラボ

共催：公益財団法人福岡市文化芸術振興財団

後援：福岡市

助成：令和2年度 文化庁 大学における文化芸術推進事業